

VI World Congress International Federation of Neuroendoscopy, Mumbai, December 8-11, 2013

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/40224

『学会見聞記』

第6回世界神経内視鏡学会に参加して

VI World Congress International
Federation of Neuroendoscopy,
Mumbai, December 8-11, 2013

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
脳医科学専攻 脳・脊髄機能制御学
博士課程2年

大 石 正 博

2013年12月8日から11日にインドのムンバイで開催されたVI WORLD CONGRESS INTERNATIONAL FEDERATION OF NEUROENDOSCOPYに当教室の林康彦先生と参加しました。ムンバイは人口1200万人を超える世界的なインド最大の商業都市です。実際にムンバイの町を見ると非常に多くの人が溢れていることをすぐに実感できました。12月に訪れましたが、ムンバイは乾期のため雨は降らず天気は常に晴れており、気温は30度以上という暑さでした。会場のタージマハールホテルはアジアにおいてシンガポールのラッフルズホテルと並び称される名門ホテルで、これまでも多くの学会が開催されています。2009年の爆破テロで破壊された痕は全くなく、きれいに改修したようですが、中に入るには空港並みのセキュリティでした。中に入るとロビーは広く豪華で美しく磨かれた大理石の床やソファなど高級感が漂っていました。廊下ではこれまでに訪れたゲストヒストリーを見ることができ、エリザベス女王、チャップリン、マザーテレサ、ジョンレノン、オバマ大統領など蒼々たる有名人の写真が展示されていて、いかにもセレブな雰囲気を呈しておりました。さらに館内は美術館のようで世界各地の美術品が陳列されていました。自分は場違いな所に来てしまったのでは、と思う反面、このようなすばらしい会場で開催される学会に来た以上は何か得て帰らなければと、腹をくくりました。

私の発表は2日目の夕方に“Endoscopic findings of unusual hypophysitis”という演題でポスター展示を致しました。まだまだ少ない経験ではありますが、これまで経験した症例の中で珍しい下垂体炎の3症例を報告しました。1例目はラトケ嚢胞の破裂が原因と考えられたlymphocytic hypophysitisの症例、2例目は非常に珍しいxanthomatous hypophysitisの症例、3例目はIgG4 related hypophysitisを提示しました。その中でもxanthomatous hypophysitisは非常に稀でこれまで15例の報告のみで原因や治療なども詳細にはわかっていない症例で、興味を持って御覧になっている先生方が多数おられ質問を多く受けました。アメリカやインドから来られた脳神経外科の先生と発症機序に関してdiscussionすることができました。実際のところdiscussionというにはほど遠い英語

力での会話でしたが、症例に対するコメントおよび問題点、さらにこれからも世界で発表してがんばってくださいとの励ましをいただきました。一般演題の発表では世界各国の先生が自身の手術症例のまとめ、経験から生み出された工夫、3Dイメージを利用した内視鏡の教育や技術習得など神経内視鏡に関する内容が網羅的に発表されていました。日本からの参加者の多くは著名な先生でしたが、私の他に1人だけ福井大学脳神経外科の若手ドクターが英語で発表していました。私と彼だけが日本からの20代の参加であり、彼の発言や知識などは非常によい刺激となりました。

今回は私にとって初の海外での学会参加であり、海外の学会がどのようなものか知ることができました。また世界でどのような医療が行われているかを垣間見ることができました。自分たちの行っていることが本当に正しく世界に通用するものなのか、世界中の先生たちは私の知らないようなすごいことを知っているのではないかと、という疑問が以前からありましたが、我々が金沢で行っている医療が世界のレベルに引けをとらないものであることがわかりました。

最後にこのような貴重な学会への参加を快く承諾くださった当教室の故・濱田潤一郎教授をはじめ教室員の皆様に感謝を申し上げます。

